

## 第6学年(第5.6学年)日本語指導における平和教育 道徳「へいわってどんなこと？」

福岡市立内浜小学校 教諭 床田知子

### 1 単元(主題)名 生命の尊さ(D-17)

「へいわってどんなこと？」(日・中・韓 平和絵本)

### 2 単元(題材)の目標

○平和に対する人々の思いや願い、平和の大切さについて理解する。(知識・技能)

○人々の思いを大事にしながら自分の生き方を見つめることができる。

(思考・表現・判断力)

○世界の平和のために、自分たちにできることを主体的に考え、行動しようとする心情を持つことができる。(主体的に学習に取り組む姿)

### 3 単元(題材)について

#### (1) 教材観

様々な文化、宗教、歴史をもった国から来た外国にルーツを持つ子どもたちに、日本人から見た平和教育をするのはひじょうに困難であると、度々在籍学級の担任から相談を受けてきた。子どもと保護者に前もって平和教育をすることを伝え、了承を取るようにし、どうしてもその授業を受けることに懸念がある時は別室で取り出し授業をするを提案している。ほとんどの外国にルーツを持つ子どもが平和授業を受けているが、授業者も授業を受ける方もいくばくかの不安を感じているのが現状である。

そこで、在籍校の教育計画を大切にしながら平和教育の授業を受ける前に、ワンクッションになる平和教育の素地を作りたいと考えた。

本教材は、わかりやすい言葉で戦争のこわさを伝えることができるとともに、この教材は、日本・韓国・中国の共同制作であり、一つの価値観でみたものではなく、各国出身者にとって入りやすいものであるということがいえるであろう。

#### (2) 児童観

現在、私の担当として福岡市西エリア日本語指導に通う子どもの国籍は、中国が12名、韓国が2名、フィリッピンが1名、アフガニスタン1名、ジンバブエ1名、インド1名、バングラディッシュ1名、イギリス1名、香港1名という構成で、中国出身者が過半数を超える。本学校に在籍している児童5名を除いて15名が週に1回90分授業を受けるために通級している。

ここでは、日本語の理解度や思考力を鑑みて、中国人児童5年生4名、6年生2名、アフガニスタン5年生1名、香港5年生1名を主に対象児童とした。

日本語の習得状況に差はあるものの、自分の考えを日本語もしくは母国語でグーグル翻訳を使って説明できるのではないかと考える。

ただ、今までの歴史や現状の国の関係を考えると、持って行き方によっては、日本の価値観の押し付けになってしまう懸念がある。そのために、在籍学級の平和教育の前に平易な言葉で書かれ、人生において普遍的に大切なことを語っている「へいわってどんなこと？」の絵本を読み、感想や自分ができることを考え、表出することによって、人類において普遍的な「平和」について考えていくということを知り、安心して在籍学級の平和教育を受けることができるのではないか、また平和教育への意識が高まるのではないかと思われる。

### (3) 指導観

本単元（題材）の授業にあたっては、まず自分についてのアンケートを取り、それぞれの考え方や生活のようすを表現させる。

そこから自分たちの幸せな生活において大切な「平和」について考えるようにめあてを持たせ、絵本「へいわってどんなこと」を読ませる。

本実践では、絵本「へいわってどんなこと」を通して普遍的な戦争の恐ろしさや平和の大切さに気づき、自分の考えをまとめるとともに、これから自分は何ができるかひとりひとり考えていく。

そして、最後の質問において「社会のために自分ができることは何なのか。」を発達段階に合わせて尋ね、自分の考えを文章にする。文章を書く際は、最初から日本語で書いていく子どももいると思われるが、現段階の書く力では、自分の思いを表現できない子どもには自国語で書いてそれを翻訳することもよしとする。

また、「へいわってどんなこと」について自分の考えを書いたものを、在籍学級に伝え、学級で紹介してもらい、友だちからの反応のもらうことにより、達成感を味わうことができるようにする。

### (4) ESD との関連

#### 本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

- 「多様性」…様々な人種・文化・宗教・考え方を持った人がいる。
- 「相互性」…皆なんらかの関わりをもって生活しており、相互に影響を与えている。
- 「公平性」…戦争によって起こる様々な不平等について知る。
- 「連携性」…分け隔てなく、仲間づくり。

#### 本学習で育てたい ESD の資質・能力

- ・多面的・創造的に考える力（システムズ・シンキング）  
自分だけの価値観と日本の価値観をすり合わせ、自分のできることをしようとする意欲
- ・コミュニケーションを行う力  
相互を理解するために、自分の気持ちや考えを伝えることができる。

- ・つながりを尊重する態度  
自分だけでなく、相手とのつながりを重要視する態度。
- ・進んで参加する態度  
自分から課題を考え、解決しようとする態度。

#### 本学習で変容を促す ESD の価値観

- ・多様性の尊重
- ・人権尊重
- ・幸福感への気づき
- ・世代内の公正

#### 達成が期待できる SDG 's

- ・目標 1－3 貧困や弱い立場にある人々に対する十分な保護
- ・目標 16－1 あらゆる場所で、すべての形態の暴力と暴力関連の死亡を大幅に減少させる。
- ・目標 16－2 子どもに対する虐待、搾取、人身売買あらゆる形態の暴力、そして子どもの虐待をなくす。
- ・目標 16－b 差別のない法律や政策をすすめ、実施する。

#### 4 単元の評価規準

(ア) 知識及び技能	(イ) 思考力・判断力・表現力	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
① 「へいわとはどんなことか」理解し、自分の考えを文章化している。(日本語でなくても構わない。) ②自分でえらんだ「へいわをまもるためにできること」を絵や文章で表現している。	① 「へいわとはどんなことか」を考えた上でそのことについて自分の意見を持っている。 ② 自国と日本の歴史や文化・宗教の違いに目を向けるのではなく、色々な視点をもつとともに普遍的に大事なものに気づき、これからの自分の行動を考え、表現している。	① 「へいわとはどんなことか」「へいわがなくなったらどんなことになるか。」を自分ごととしてとらえ、今の自分や将来の自分にできることを考え、活動しようとしている。 ② 色々な考えがあることを知り、二つの文化・習慣を行き来する自分の立場から気づいたことを周囲に発信しようとしている。

## 5 単元の指導計画（全3時間）

次	主な学習活動	学習への支援	評価(△) 支援(・)
1	<p>1 自分についてのアンケートについて答え、今の自分がまわりの人に支えられ、それぞれの夢をもって生活していることに気づかせる。</p> <p>○自分についてふりかえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あなたの好きなことはなんですか。</li> <li>・これまでにがんばったー！とおもうことはありますか。</li> <li>・まいにちしていること(しゅうかんにしていること)はありますか。</li> <li>・あなたがたいせつにしているものはなんですか。</li> <li>・あなたをおうえんしてくれる人はだれですか。(学校でも家でも他の場所でも。)</li> <li>・いままで挑戦したことはどんなことですか。</li> <li>・いままで失敗したなーと思うことはなんですか。</li> <li>・いま、あなたがいちばんわくわくすることはなんですか。</li> </ul> <p>2 絵本「へいわってどんなこと？」を読む。</p> <p>○「へいわってどんなこと？」を読んで、「へいわだからできること」について考える。</p> <p>(できること)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・だいすきなひとのそばにいる。</li> <li>・ごはんがたべられる。</li> <li>・ともだちといっしょにべんきょうができる。</li> <li>・だいすきなうたがうたえる。</li> <li>・いやなことはいやだといけんがいえる。</li> <li>・おもいっきりあそべる。</li> <li>・あさまでぐっすりねむれる。</li> <li>・いきられる。</li> </ul>	<p>○みんなの気持ちを知りたいのでアンケートに答えてもらうことを知らせる。</p> <p>○日本語と同時に英語、中国語などで質問用紙を作成する。</p> <p>○答える時も、日本語だけではなくGoogle翻訳やボイストレなどを使い、母語を使ってもいいので、自分の気持ちをできるだけ言えるように支援する。</p> <p>○アンケートの回答については、今答えられないものは、また後で時間をかけて答えてもらえばいいことを伝える。</p> <p>○戦争が起きたら、あなたがアンケートで答えた大好きなことができなくなったり、大好きな人といっしょにいられなくなったりすることを伝える。</p> <p>○できなくなることを数え、そうなった時の気持ちを考える。</p> <p>○平和だからこそできることにあらためて気づき、考えたことをまとめる。(母語で翻訳アプリを使ってもいい。)</p>	<p>・イ① (思考力・判断力・表現力)</p> <p>・ア① (知識・技能)</p>
2	<p>1 みんなの「じぶんについてのアンケート」や「へいわについてかんがえたこと」から、自分の考えをまとめる。</p>	<p>○アンケートのけっかをまとめたものを見せて、色々な国からきた人の好きなものやがんばっていることを知る。</p>	<p>△ア① (知識・技能)</p>

	<p>○絵本から考えたことや他の日本語指導に来ている子どものアンケートや感想を読んで思ったことを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・せんそうがおこったら、今できていることがぜんぶできなくなってしまう。</li> <li>・大好きなかぞくと会えなくなるかもしれない。</li> <li>・ひとりでは生きていけない。</li> <li>・ごはんもたべられなくなるかもしれない。</li> <li>・なぜせんそうをおこす人がいるのか。</li> </ul> <p>○せんそうをおこさないために、今のじぶんに出来ること、これからのじぶんのできそうなことを考える。</p>	<p>○色々な考え方をしている人がいるが、みんなの日常の生活や幸せや夢を奪ってしまう戦争はいやだという気持ちは共通していることに気づく。</p> <p>○友だちの感想を読んで、共感できること、また自分ならではの考えを書くことができるようにする。</p> <p>○平和な生活を守っていくために、どんなことができるか、身近なことから、自分のできそうなことを書きださせる。</p>	<p>△イ① (知識・技能)</p> <p>△イ② (思考力・判断力・表現力)</p>
3	<p>1「へいわってどんなこと」について自分の考えを文章にまとめる。</p> <p>○自分が考えた「へいわ」について、学級の先生や友だちに知らせるためにどんな形式（作文や新聞形式など）にしてまとめるか考える。</p> <p>○書かれた作文は、許可してくれるならば集めて文集にすることを伝える。</p> <p>○活動のふりかえりをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今の自分の生活が、決して当たり前ではないこと、色々な境遇にいる人々の生活を想像し、「平和の大切さ」を考えることができる。</li> <li>・二つの国の文化・歴史を知っている自分だからこそ気づくことがあるかもしれない、また国が違ってゆらがない普遍的な価値にも気づき、自分の思いを伝えようとする。</li> </ul>	<p>○今まで書いたことについて一つ作品にまとめることを伝える。</p> <p>○友だちがまとめた形式を紹介する。(作文・小説・イラスト)</p> <p>○作成する時間が限られているので(45分)子どもたちが書きやすい作文のテンプレートや新聞の形などを用意しておく。</p> <p>○細やかな表現を母国語でしたい場合は、母国語で書いて翻訳してもいいことを伝える。</p> <p>○出来た作品は、在籍学級の担任の先生や友だちに紹介することをつたえ、作品を作ったことの達成感と反応をもらえる期待感を持たせる。また、後輩たちにも紹介することを伝え、作成した満足感とともにこれからも平和について考えていこうとする態度を育てる。</p>	<p>・ウ① (知識・技能)</p> <p>△ウ② (思考力・判断力・表現力)</p>

## 6 成果と課題

○今回、対象とした子どもは、5、6年生だが、ほとんどが日本に来て半年以内、まだひらがなを理解することがやつの日本語初期指導の状態であった。ゆえに、思考能力はあるもののそれを表出することが出来ず、もどかしい状態にあった。平和についてというひじょうにナイーブな問題に取り組む前に、ひとりひとりの思いを、グーグル翻訳越しであるが聞くことができ、「平和」についての話題をリラックスして聞くことができた。

○子どもたちの今興味を持っていること、大切にしているもの・ことについて振り返り、それから絵本を読んで、平和について語り合うという一連の流れは、人にとって普遍的な大切なことを考えることに適していた。自分たちの幸せの対極にあるものが戦争であるということが鮮明になった。そして、全ての子どもが「へいわってどんなこと」という問いに、全員が（複数回答あり）で、「だいすきなひとに いつもそばにいてほしい」と回答していたおとは、子どもの普遍的な願いに触れた気がした。

○外国にルーツをもつ子どもたちは、国の事情もあるかもしれないが、おしなべてひじょうにこの問題には関心が高かった。個々の子どもたちの平和を願う真摯な気持ちに触れられて、自分自身この課題に対してもっと学習していきたいと考えるとともに、未来へ向けての教育の大切さを実感した。

●平和教育はだいたい6月中旬から7月までに行われるのに、実際にこの授業をしたのが11月後半だったことで、在籍学級の平和教育の前という大前提がくずれてしまった。来年度はぜひ6月の平和教育の前に実施したい。

●夏の平和教育だけではなく、国語の平和について書かれた題材の際にも、個々の子どもたちの考えたことを在籍学級の先生や子どもたちに伝えたかったのだが、教育計画とずれてしまうとせっかくの文章や作品が生かされないことがあった。個々の子どもたちの在籍学級とのスケジュールを合わせる必要があるであった。平和教育の事前や事後に外国にルーツをもつ子どもの考えを在籍学級に知らせることによって、平和について普遍的感觉を皆がもっているということを伝えるいい機会を生かせなかったことが残念であった。来年度、各学年の人権の係の先生と事前に打ち合わせをして計画的に授業をしていきたい。

### （子どもたちの反応）

アンケート結果（8名）

#### ① あなたの好きなことはなんですか。

絵を描くこと4名・ゲームをすること2名・マンガ・柔道・1名サッカー・ドッジボール1名

#### ② これまでがんばったー！と思うことはありますか。

絵2名・日本語2名・英語1名・お手伝い1名・算数1名・ルービックキューブ1名

#### ③ 毎日していること（しゅうかんしていること）

日本語の勉強 3名・宿題 3名・お手伝い 1名・ゲーム 1名

④ あなたが大切にしているものはなんですか。

家族 8名・友だち 2名・猫・金魚 1名・ゲーム機とカセット 1名（重複）

⑤ あなたを応援してくれる人はだれですか。

おとうさん・おかあさん 8名・・・先生 5名・おねえさん 2名（重複）

⑥ 今までにチャレンジしたことはどんなことですか。

日本語 3名・算数 2名・試験 1名・スピーチコンテスト 1名・家の整理整頓 1名

⑦ 今までに失敗したなーと思うことはなんですか。

なし 4名・算数 1名・最初の奨学金のテストに落ちた 1名・けがしたこと 1名  
体重を減らせなかった 1名

⑧ 今、あなたが一番ワクワクすることはなんですか。（興味・夢・目標）

ゲーム 2名・ドッジボールやおにごっこ 2名 家や学校で過ごすこと 1名・お祭りで 3  
匹の金魚を捕まえた 1名・イラストレーターになりたい 1名 弟が生まれた 1名

**（このアンケートを実施した後、「へいわってどんなこと」を読み、次の質問に答えた。）**

① あなたにとってへいわとはどんなことですか。（複数回答可）

「だいすきなひとといっしょにいること」 8名全て回答。

「おなかがすいたら だれでも ごはんが たべられる」 5名

「あさまで ぐっすり ねむれる」 4名

「ともだちと いっしょに べんきょうだって できる」 3名

② へいわをまもるために あなたはどんなことをしたいですか。（複数回答可）

「家族や友だちを大切にする。」 6名

「わからない。だから勉強したい。」 3名

「いろいろな人の意見を聞く。尊重する。」 1名

③ 日本について何が知りたいですか。（複数回答可）

「漫画やアニメ」 6名

「日本の食事」 2名

「日本のファッション」 1名

「日本の女の子に流行っている歌」 1名

「日本の歴史」 1名

「なぜ日本人は積極的でないか。」 1名

(子どもたちが平和について考えて作成した文章)

○「ちいちゃんのかげおくり」を読んで考えた物語 バングラデクシュ 3年生 女子

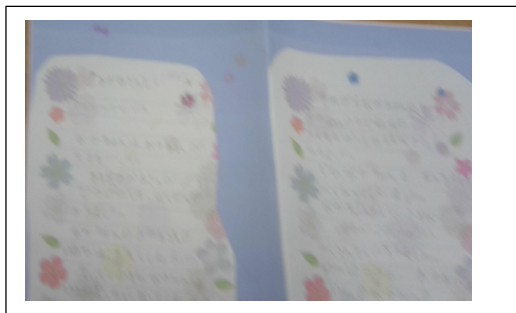
「なかちゃんは、おかあさんが大好きでした。

ある日、おかあさんがしごとででかけたとき、ばくだんがおちました。なかちゃんのおかあさんのいのちは、きえてしまいました。

そして、小さななかちゃんは、ひとりぼっちになってしまいました。なかちゃんは、おかあさんをさがしつづけました。それからなかちゃんは、おかあさんのちでぬれたふくろをぎゅうっとおさえながらなきました。

でも、なかちゃんも、せんそうでなくなってしまうました。なかちゃんのように小さいのちが、このじだいにたくさんそらにきえました。わたしのみみに、おかあさんといっしょのわらいごえがきこえてきます。」

この子は「ちいちゃんのかげおくり」の感想を物語にしていいますかと尋ね、創作の文章を書きました。なかちゃんは、担任の先生の愛称です。



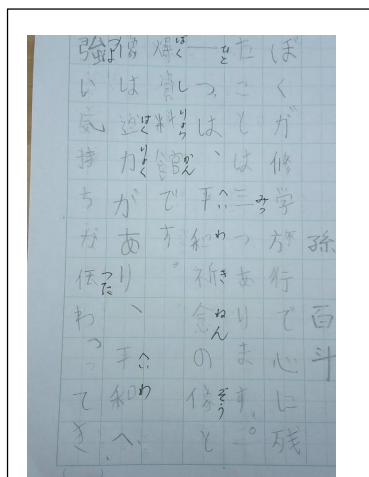
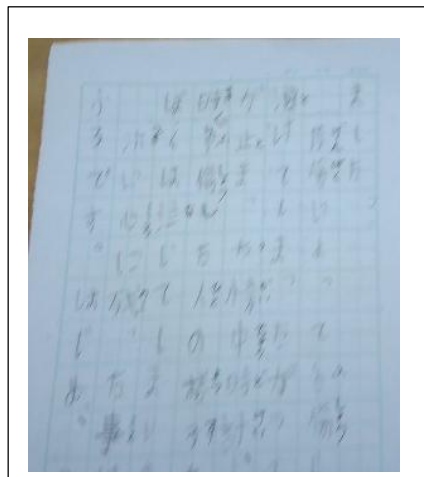
○「修学旅行で心に残ったこと」 中国 6年生 男子 抜粋

「ぼくが修学旅行で心に残ったことは三つあります。

一つは、平和祈念の像と原爆資料館です。

像は迫力があり、平和への強い気持ちが伝わってきました。

原爆によって負傷した人、溶けてしまったガラス、時が止まった懐中時計、その時、負傷した人の様子を見てぼくは泣いてしまいました。後略」



「平和宣言に書かれていること」 中国 6年生 男子

○「平和宣言に書かれていること・・・大切なことをまとめよう。」

「この世界では、いまだに戦争がおこっている。戦争で多くの人が命をうばわれています。広島・長崎で原爆が使われたのも戦争があったからです。

私たちの市民社会は、戦争の文化と平和の文化があります。平和の文化を根付かせていきましょう。つまり暴力ではなく話し合いで解決しようということです。

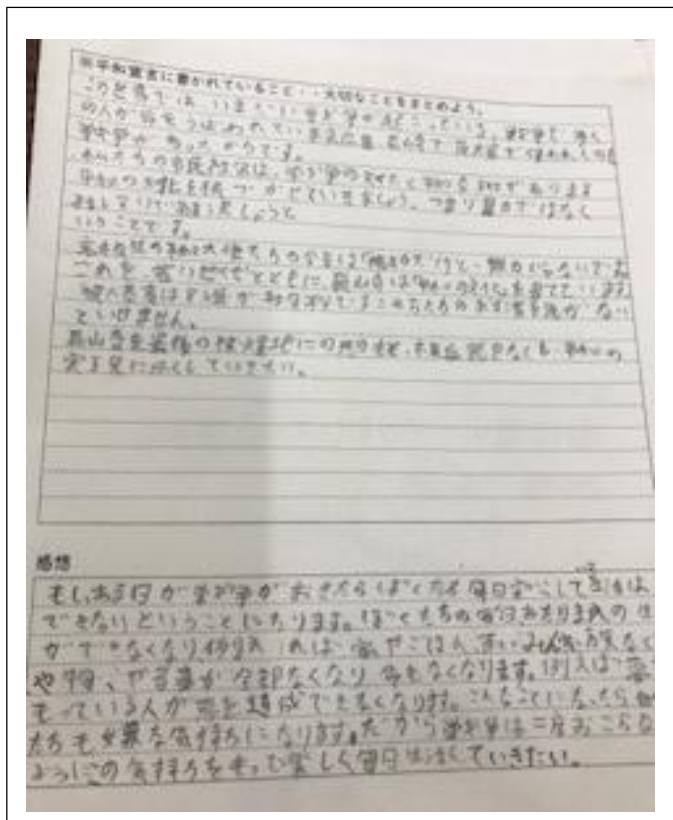
高校生の平和大使たちの合言葉は『微力だけど、無力じゃない』です。これを若い世代とともに長崎は『平和の文化』を育てています。

被爆者は、84歳が平均年齢です。この方々の救済を急がないといけません。

『長崎を最後の被爆地に』の思いのもと、核兵器をなくし、平和の実現につくしていきたい。」

○「感想」

「もし、ある日戦争がおきたら、ぼくたちが毎日すごしている生活はできないということになります。ぼくたちの毎日、あたりまえの生活ができなくなり、家やごはん、すいみん、家族などや物、やる事が全部なくなり、命もなくなります。例えば夢をもっている人が夢を達成できなくなります。こんなことになったら嫌な気持ちになります。だから戦争は二度とおこらないようにこの気持ちをもって楽しく毎日生活していきたい。」



**現在の学年終了時に目指す姿**

日本の平和教育との相違点と共通点に気づくとともに、普遍的な人権尊重の価値に気づき、違いを前提にして得た自分の考えを周囲に発信していくことができる。



なんで日本の平和教育は、本国で受けた愛国教育とは違うの？

なんで日本の平和教育は原爆や空襲など自らが受けた被害ばかり言うの？

**1年生から6年生までの道徳の時間「平和教育」**

- 1年生 ぞうのもん {ぬくもり}
- 2年生 へいわなんだろう「ぬくもり」
- 3年生 火の海をにげて (ぬくもり)
- 4年生 福岡大空襲 5年生 3つの願い
- 6年生 沖縄戦・広島・原爆の被害について

**特別な教科指導（日本語指導）**

「わたしの国をしょうかいします。」

自分の国の自然、文化、食べ物、学校生活など友だちに教えたいことを絵や写真、動画、また具体物を用いて紹介することができる。

**道徳の時間「へいわってどんなこと？」**

○主に養いたい ESD の資質・能力  
多面的・総合的に考える力(システムズ・シンキング)  
 今までの自分の価値観と日本の価値観の相違点と共通点に気づき、自分の行動を選ぶことが大切である。

コミュニケーションを行う力

相互理解のために、日本語が十分でなくても、色々な方法やサポートを使って自分の気持ちや考えを伝えることができる。

○主に育てたい ESD の価値観  
 人権・文化を尊重する。(文化多様性の尊重)  
 それぞれの文化や歴史を尊重し、多様な文化や歴史の違いに左右されない普遍的な価値に気づき、どんな行動が必要か自分で考えることができる。

**総合的な学習「半年後のわたしにメッセージ」**

□卒業式を迎える将来の自分に、半年前（7月中旬）に、自分の今をさぐり、（今、何が好きで、何が苦手で、何が大切で、これから何を目標に頑張っていきたいか）を考え、友だちの考えも知り、GTにも会うことによって将来の自分へのエールを送る。

**修学旅行（長崎）**

長崎の原爆資料館や祈念像や平和記念公園を直に見学することによって、戦争の悲惨さを知り、平和の大切さを感じることができる。

いろいろな点が違うけど、命の大切さについては同じ考えである。

わたしもあなたもひとつだけの大切な命をもっている。話し合い、理解できるということなんらかの形で示したい。